

2025年1月24日

会社名 株式会社ジェーソン

代表者 代表取締役社長兼会長 太田 万三彦
(コード番号：3080 東証スタンダード市場)

問い合わせ先 専務取締役企画管理部門統括 山田 仁夫
電話番号：04-7193-0911 (代表)

2025年2月期第3四半期 決算に関する質疑応答集

この質疑応答集は、2025年1月14日に発表いたしました2025年2月期第3四半期 決算について、当社で想定していました質問および発表以降に株主、投資家などの方々からいただいた主なご質問・お問い合わせ等の内容とその回答についてまとめたものです。本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものであり、ご理解いただきやすいよう、一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q1 | 2025年2月期通期業績予想修正について、主な要因を教えてください。

A | PB商品の「尚仁沢の天然水」をはじめとする飲料の需要が高く好調な販売状況が続いていたこともあり、通期業績予想を当初計画通りとしておりましたが、社内物流の体制整備が追い付かず、結果として販売数量の伸び悩みから、売上高において当初計画を下回る予想となりました。

利益面においては、ローコスト経営による各種コスト抑制効果もありましたが、新規出店に伴う地代家賃等の増加や、物流適正化に向けた車両関係費、増設した飲料倉庫の賃料、その他将来に向けた前向きな投資等が先行したことが影響いたしました。

Q2 | 2025年2月期第3四半期業績が前年同期比で減収・減益となりましたが、その主な要因を教えてください。

A | PB商品の「尚仁沢の天然水」や「はじける強炭酸水（天然水の強炭酸水）」は冬場でも安定した需要があり、前年同期を上回る売上高となりましたが、全体的には販売数量の伸びが鈍化したことに加え、仕入原価の高騰が続くなか価格転嫁をやや抑制方向で運営したことや、2025年2月期第2四半期に引き続き物流適正化に向けた車両関係費や飲料倉庫の増設費等が影響し、前年同期比で減収減益となりました。

仕入コスト増加に伴う価格転嫁については、ロープライス戦略にこだわった運営を引き続き進めていくことを基本に、顧客の反応を伺いつつ、粗利率とのバランス調整を課題として今後も取り組んでまいります。

Q3 | 株主優待拡充の理由を教えてください。

A | 昨年初めて導入し、おかげさまをもちまして大変ご好評いただきました株主優待制度を、さらに多くの方にご享受いただけるよう、今般制度の内容を拡充いたしました。より多くの株主の皆様にご愛顧いただき、当社のファンとなっただけでなく、また、株主様の裾野をさらに広げ、中長期的に当社株式を保有していただける株主様の一層の拡大を図ることを目的としております。

詳細は[こちら](#)のお知らせをご覧ください。

Q4 | 社内物流体制の改善状況はいかがでしょう。

A | 飲料需要の高まりに対応したトラックの増車、飲料倉庫の増設、子会社における飲料保管倉庫の新築、また、配送プログラムの適正化等を順次進めた結果、物流体制は着実に改善方向に向かっています。今後も、トラックの更なる増車や効率的な運行など物流体制の整備・適正化に継続的に取り組んでまいります。

Q5 | 小売業界においても課題となっている人材不足への対応策を教えてください。

A | 人材不足への対応として、またローコスト経営の一環として、当社では省人化に注力しております。具体的には、店舗における効率的な人員配置や各種バックオフィス業務の自動化など、積極的なIT活用により業務効率化と人件費削減を推進しております。

あわせて、中堅クラス人材の中途採用にも継続的に取り組んでおり、組織力の強化に努めております。

Q6 | PB商品の「尚仁沢の天然水」と「はじける強炭酸水（天然水の炭酸水）」の売上状況を教えてください。

A | 「尚仁沢の天然水」は前年同期比約2倍の売上、また「はじける強炭酸水（天然水の炭酸水）」は2024年5月末の発売以来着実に売上を伸ばしており、いずれもジェーソンオリジナル商品として当初計画を上回る好調な販売を維持しております。

Q7 | 今期にオープンした新店舗について、売上状況はいかがでしょう。また、今後のスクラップ&ビルドの状況について教えてください。

A | 5月に東村山青葉町店、7月に常陸太田宮本町店、9月に那須烏山店、10月に前橋北代田店をオープンいたしました（第3四半期末時点116店舗）。一方で、12月に1店舗を閉店し、2024年12月末時点では、直営店舗数は115店舗となりました。新店舗はいずれも概ね計画通りの売上で推移している状況であり、今後も店舗の収益性を重視したスクラップ&ビルド戦略を進めてまいります。

Q8 | 将来の企業価値向上に向けた先行投資を積極的に行っていますが、具体的にはどのような内容でしょうか。

A | 車両の増強、飲料倉庫の設置、子会社における生産設備の一部更新および保管倉庫の新築等を順次進めるとともに、全社的には、処遇改善や中核人材の積極登用、および長期事業戦略を見据えた先行投資などを行っております。

